

6月の生活表

2022年 6月

聖マリア幼稚園

年主題：つながって ～今、わたしを生きる～

月主題：探してみる

・保育日数（22日）

月目標：<3歳児>

- ・聖歌や聖書のお話、身の回りのことを通して、神さまの存在を感じる。
- ・時間や空間を十分に与えられて、やってみたいことをたっぷり楽しむ。
- ・砂場や絵の具、体を動かすなど、いろいろなことを試してみる。

<保>好きな物・遊び・場所・人を感じながら、自分から心と体を動かしている姿を大切にする。

<4・5歳児>

- ・嬉しい時にも、悲しい時にもお祈りをする。
- ・興味関心を持ったことを一人でまた友だちと一緒に、考えたり、調べたり大人に聞いたりする。
- ・葛藤や挫折も通いながら考え、手や体を動かすことを重ね、ゆっくりと様々なやり方を身に付けていく。

<保>すぐに答えを出すのではなく、共に考え、子どもが見つけていくプロセスを大切にする。

教会前の紫陽花もそろそろ開花し始めました。6月は祭日のない月で保育日数が一番多い月です。ということはいっぱい遊べるということですね。梅雨を迎える季節で思っきり外遊びができないかもしれませんが、室内の遊びにも色んな工夫が生まれてくるのでしょうか。時間と空間をたっぷり使い、のびのびと遊びに耽って欲しいと思います。まずは「自分のしたい遊び」が何なのか。「明日もこの続きがしたい!」と思える遊びは何なのか。「続きがしたいし、早く幼稚園に行きたい」と思える意欲を示せる時は、物は何なのか。それぞれの遊びが、子どもたち自身で作られているものなのかどうか、つまりは子どもたち自身が喜んで、友だちと共に遊んでいるのかどうかということです。自身での関わりがあってこそ、次のステップでの遊びが楽しめるのでしょうか。それは、お友だちと仲良くしながら、時には意見が合わなくても、お互いの気持ちを察して受け入れ、同じ方向を向いて遊び込める。その過程で「探してみる」ことも有効になるのではないのでしょうか。今、お庭ではダンゴムシ・てんとう虫・蟻などの虫との共存で日々を過ごしています。「あ、ここに・・・がいた」だけでなく、何故?に続き、「だから・・・よね。」「やっぱり・・・。」「僕・私はこうしたよ」とその時その場に応じてお互いのまた自分の心の中の言葉が、気持ちに沿って湧き出てくるようになれば、探るという行動へと気持ちが高められて行くのでしょうか。いっぱい捕まえたその先には数字があります。色や形によりその生態にも触れられます。子どもたちの問いと答え、そんな探究心は止めどなく続くものではないでしょうか。子どもたちって本当に素晴らしい!!

《チャブレンコーナー》

6月聖句 探しなさい。そうすれば、見つかる。

(マタイによる福音書 7：7)

「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。」大変有名なイエス様の教えです。人生に対して、積極的に取り組む人々を、励まし、支える言葉です。私たちの社会では、責任や役割が重視され、私たちの中にも「～ねばならない」という思いが強いように思います。その中で、自分が本当に求めているもの、本当に必要としているものを直視し、それに向かって正直に、率直に向かっていくことを肯定し、励ましてくれる言葉です。私たちの人生にとって、とても大切な言葉と言えるでしょう。

ただ、今までに様々な人生経験を積んで大人になった私たちは知っています。求めて、探しても、手に入らないことがあるということを。私たちは今まで、多くのものを諦めてきました。けれども、イエス様の言葉を信じて、諦めずに取り組むとすれば、次に必要なのは、忍耐です。必ず実現すると信じて、その時まで忍耐するのです。忍耐するのは楽ではありません。なんでもすぐに手に入るこの時代に、忍耐するのは至難の業です。私たちの忍耐を支えてくれるものがあります。それが、「信仰、希望、愛」（1コリント13：13）です。神様を、また目の前の人を信頼すること、前向きに未来をとらえること、そして、どのような時にも周りの人への優しさを忘れないこと、この3つを実行していけば、きっと、私たちは忍耐していけると思います。子どもたちはこれから、どんどん新しい未来を切り開いていきます。様々なものを探し求めていくことでしょう。時には上手くいかない時もあるかもしれません。そんな時、私達大人と一緒に忍耐してあげたいですね。

おたんじょうび おめでとうございます

<生活指導>

§ 梅雨時の健康には十分気をつけましょう。

- ・気温の変化に注意し、水分・塩分補給で熱中症を予防しましょう。
- ・汗をかいたら自分で拭けるように、ハンカチをお持ちください。
- ・帰宅後の手洗い、うがいがしっかり出来るように習慣付けましょう。
- ・お風呂（シャワー）・シャンプー・耳垢・爪切りなど、清潔に保つ習慣を心がけましょう。

§ 自分で出来ることには意識を持たせて、自分でさせるようにしましょう。

- ・それぞれの子どもに合わせた身辺自立を心がけましょう。
- ・持ち物が多い時は、その持ち方が工夫できるようその方法を教えてあげましょう。
- ・雨具が自分でたためるように練習をしましょう。
- ・大便の後始末が出来るように、また紙の使い方もご家庭で教えてあげてください。
(特に女子は、菌が入らないように拭き方に気をつけましょう。)

§ 母の日や父の日を通して、身近な人たちの事を考えてみましょう。

- ・家族の名前・人数・年齢・仕事などを知らせ、みんなの働きによって日々の生活が成り立っている事を知らせましょう。
- ・家庭内でのお手伝いをさせましょう。

お手伝いは、子どもに物事の流れを体得させ、段取りがつかめるようになると共に周りにも目が向けられるようになります。家族の一員である自覚の芽生えですね。

§ 朝の準備

- ・就寝前の明日への準備、起床後の準備はスムーズですか。着替え・お手洗い（トイレ）・洗顔・食事・鞆を持って出かける。子ども自身で、前もっての準備が心がけられますように。(＝曜日の感覚・時系列、それぞれに伴う内容把握に繋がります。)
- ・登園前のテレビ・食事時のテレビは消しましょう。食事時の楽しい会話を弾ませ・味覚を感じ・明日の予定を確かめるetc.一日の振り返りと共に、感謝や反省など話題を豊富にし、さらには決められた時間に登園できるように心がけましょう。
- ・身なり（靴下をのばす、髪を束ねる、シャツを入れるなど）を整えましょう。

§ 交通規則をさせましょう。（子どもと一緒に確認）

- ・幼稚園にも馴れて来たこの時期、危険に対する自覚を持たせましょう。

- ・信号の確認・一旦停止・左右確認・飛び出し(降園時園庭から)禁止など習慣付けて下さい。
- ・横断は必ず横断歩道を渡り、歩く時は手を繋ぎ、子どもは中側を歩かせましょう。
(どこかで繋がっててください。服を持つ・ベビーカーを持つなど)
- ・自転車との接触、追突などが起らないように、周りに目を向けましょう。また大人は、予期せぬ事故が起こりうることをいつも頭の片隅に入れておきましょう。

<クラス便り：各担任より>

<花組>

丸太町通りの紫陽花は準備中。梅雨入り間近の移り気な空とにらめっこしながら、子どもたちと園庭遊びを楽しんでいます。

可愛いゴム草履をご用意してもらって、何とも嬉しそうに下駄箱に並べて見つめる横顔。お天気の良い日の朝は園庭遊びが楽しみの子どもたちです。気温も高く、裸足OK!と聞いて、可愛い足が園庭デビューしたのですが...ん?何だかお砂の感触?石が少し痛い?水が冷たいような...と、立ち止まったのも束の間、赤組さんの作ったお山&お池へGO!!!バッシャーン!!!一瞬何が起こったのか!?先生もお姉さんたちも、え?と目をパチクリしたその先には、泥んこスタイルで大笑いの可愛い花組さん!!「気持ちいい～～!!楽しい!!」とニッコリ満面の笑みです。「そらそうだよね!」こんな楽しそうな表情を前に「ダメ!!」なんて言葉はもちろん言いません。が!「お顔はつけないでね～～」と、お口や目からバイキンさんが入ったら大変だということは伝えるのでした。と同時に、【お片付け後にはシャワーだな】と思わず笑ってしまいました。

思い思いに遊び、楽しさを全身で感じ自分の思いを達成すべく心と体を動かす子どもたちですが、その瞳の先にどんな思いがあって・何を目的として、必要な援助や言葉は何かな?と私たち大人も必死で心と体を動かして考えます。楽しさや嬉しい発見を共有出来た時の喜びを大切にしたいですね。今日より明日が子どもたちにとってより楽しく、新たな発見の連続になりますように。今月の月主題の『探ってみる』を心に留め、子どもたちとの毎日を一日一日ただ何気なく過ごすのではなく、ひとりひとりの子どもたちの《今》にじっくり向き合いながら、たっぷりと楽しんでゆきたいと思います。

「先生!いいことしたい!」「いいことする?」とニヤリの花組さん。「いいこと」とは?子どもたちに聞くと...絵の具で何かをすること。だそうです。絵画・制作のことを指しているのですが、絵画・制作を「楽しいこと」と認識してくれていることにただただ嬉しく思います。絵画・制作の活動の時には、最初に先生のお話(説明)を聞いて、材料や道具を使って取り組みます。自分らしさをそれぞれに発

揮出来ているかな？楽しそうかな？やらされている...になってはいないかな？と。これから始まる〈七夕制作〉でも子どもたちが自分らしさを発揮しながら、その活動の中に込められた様々なねらいや目的を達成して更に心身共に成長していった欲しいな、と願っております。

こうして、目の前の可愛い子どもたちの《今》を思い、あれやこれや何をしようかと考えている幸せな時間。同じ時間に世界には戦争に怯える子どもたちがいることを決して忘れてはいけない。日々の感謝を忘れてはいけないと痛感いたします。これからも毎日子どもたちとお祈りしたいと思います。

＜赤組＞

毎日が晴天で真夏かと錯覚するくらいの日が多かった5月。そんな眩しい太陽に負けないくらいの笑顔を輝かせ、毎日思いっきり遊ぶ子どもたちです。登園して「おはようございます」と丁寧にお辞儀をして朝のご挨拶をしてくれる赤組のみんな。朝の用意を済ませると、園庭に出やすくなった赤組は、晴れている日はほぼ毎日園庭へ飛び出します。おままごとを継続して楽しむ子、虫探しに夢中になる子、緑組さんが遊んでいるところへ行って寄せてもらう子、ブランコやクルクル滑り台などの遊具で遊ぶ子、砂場で山や海作りに励む子、、、たくさんの遊びが園庭で繰り広げられています。おままごとで使う葉をちぎるだけでなく、包丁、まな板を使って切ってスープに入れたり、桜の実をそのまま使ったり、潰して色水にして使ったりと遊びの幅が広がったように感じます。そして、顔を出し始めた虫たち。ダンゴムシ探しはお手のもの。どこに住んでいるのか何度も探す中で習得しゴソゴソと探し、数十匹集めて大きさの違いを観察していました。集めているカップやお皿に「お花入れてあげよ」「土はちょっと濡れてる方がいいんだよね」と環境を整えている姿も。お時間になると惜しみながらも帰してあげます。手に乗せ、腕にどんどん登ってくるダンゴムシに「こしょばいよ～」と言いながらも振り払うことはありません。必ず「誰か取って～」と助けを求めます。また、日差しに耐えきれず死んでしまったミミズや蟻を見つけて「可哀想、、土に埋めてあげよう」と土に返し、神様の元へ行けるようにお祈りするといった姿も。生き物と触れ合う中で、命を身近に感じ、関わり方を学び、その大切さに気付けるようになったのでしょう。

さて、赤組さんになって2ヶ月が経ちました。赤組のお部屋での生活、ホールでの緑組さんとの生活の流れを掴み、慣れてきて緊張していた表情が和らぎ始めた子どもたち。今まで先生が一つひとつ丁寧に、「これをしたらこれをしましょう」と

1から10まで伝えていましたが、子ども自身が見通しを立てて考えたり、自分で行動ができるようにと考えて、少しずつ先生からの指示語を減らし見守ることを心がけ始めました。「次は何をするんだっけ？」と頭にハテナが浮かんでいるお友達。その時パッと先生のところまで聞きにくる子もいます。自分の言葉で、何がわからない、何を助けて欲しいのか伝えられることも成長だと思うためその時は子どもが気づけるように声をかけ、一緒に考えます。また、「あ、間違えちゃた」「次はこれだった」と周りのお友だちを見て気がつく子もいたり、「違うよ、こっちだよ」とお友だち同士で教えている姿もあったりします。お友だちの存在がより近くなり、関わりも増えたからこそその光景です。お友だちとの関わりが濃くなると同時に「自分」も出せるようになって来ました。席の取り合いや物の貸し借りなどで小さいながらもトラブルが見えてきました。最初は楽しく会話していても自分の発した言葉が相手にはきつく聞こえ、しばらく睨み合っていることもあります。トラブルは自分と違う相手の姿や気持ちを知る上で大切な経験の一つです。友だちに上手く言えないもどかしさや気持ちが上手く伝わらない悔しさも必要な体験で、みんなの中でこうして「自分」を表現していけるのは社会性が育っていくとても大切な経験なのですね。まさに今その葛藤の中にいる子どもたち。見守りながら、時には全体で「どんな気持ち？」と相手の気持ちになって考える時間も取りながら援助していきたいと思っています。

今月は「七夕制作」が始まります。作り方を目で見て、耳で聞いて、指・手先をおおいに使って、作る過程を楽しみ、出来た喜びを味わいながら、作品作りが出来ればと思っています。出来上がりをどうぞお楽しみに。

<緑組>

5月半ばに植えた野菜の苗が、プランターの土にも馴染みスススと育ち、緑の葉を生い茂らせています。植物が大きく成長するためには、根を張るための良質な土、太陽の日差し、そして枯れない程度に与えるたっぷりの水が必要です。毎朝登園する子どもたちに声を掛けます「お野菜のお父さん、お母さん、お野菜の様子を見てきてね、お水も忘れないでね」と。「あ、忘れてた！」と急いで庭に駆け出して、じょうろから水をやります。ある朝、分級の時に「今日のお野菜の苗は何か違うところがあった？」と尋ねてみました。苗を植えて半月、毎日のように水を与え、自分の苗を間近に見ている子どもたちですが「違うところ」と聞かれると、困った顔をします。それは些細なことのように、実はとても大事なこと…。

苗の元気がないこと、蕾が膨らんだこと、花が咲いたこと、またその色、実がついているもの、背丈が伸びたこと、蔓が伸びているもの...目に見えて変化していることに「気づく」視点をもつことで、ものごとを客観的にみる視野が広がります。「野菜を育てる」その経験は、自然の不思議に目を向け、また収穫して感謝して頂くという食育的な観点だけでなく、成長を観察することで「俯瞰して観る」視点を育てるきっかけになるな...と考えてきました。植物が育つ3つの条件のみに特化してかわりを持たず、「育つ」というものではないからです。自分の野菜が3つの条件を満たしているのに、元気がないことに気づき「なんでかな？」と疑問をもち、蕾や花が付くことに目を向け、その変化に目を留めて欲しいとも思います。「こうすれば良い」という示されたものを実行するだけでは、うまく行かないことがあるからです。自分が発見したこと（気づいたこと）が、友達と共有する話題となることもあります。私たち大人も、日々の子どもの変化に目を留めます。「鼻水が出る/咳が出る」という体調の変化「背が伸びた/体重が増えた」という体格の変化「友達とケンカして、気持ちが沈んでいる/仲良しの友達とたくさん遊べて嬉々としている」という感情の変化...それらの変化を捉えながら（気づきながら）、個々と向き合っています。体調が悪ければ体を休め、様子を見る。体格の変化に目を留め年齢に応じた発達、健康状態を確認する（毎月の身長体重測定）、子どもの表情や言動を通して情緒の安定を図る...。私たちの日常には実に多くの「気づき」があります。その「気づき」を立ち止まって楽しむことは「自分なりの思考と実行力」をいつのまにか養ってくれます。かしこまって、律儀に、必要なことを正確に実行すること（受け身であること）が必ずしも成功への近道ではないことを、子どもたちはこれからたくさん経験して欲しいと思っています。それは本当にごく身近な遊びを通して、ジャンピングを通して、手先の器用不器用を通して...日常の中で経験できることです。

6月。1学期の折り返し、季節は初夏から梅雨へ。進級した子どもたちは、いよいよクラスに根を下ろし、互いに競い合い、育ち合う時期への時は進みます。条件は揃いました。これら必要な栄養は？肥料は？为什么呢？子どもの育ちを探るのが、私たちの努めとなりそうです。